

平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月12日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社銀座山形屋
 コード番号 8215 URL <http://www.ginyama.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 山形 政弘
 (氏名) 渡辺 光潤

TEL 03-6680-8711

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	3,262	2.8	△35	—	35	—	15	—
24年3月期第3四半期	3,173	△7.1	△150	—	△52	—	△85	—

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 94百万円 (90.5%) 24年3月期第3四半期 49百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	0.87	—
24年3月期第3四半期	△4.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	4,397	2,610	59.4	151.23
24年3月期	4,200	2,516	59.9	145.77

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 2,610百万円 24年3月期 2,516百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,410	4.4	8	—	50	—	30	—	1.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	18,044,715 株	24年3月期	18,044,715 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	780,166 株	24年3月期	779,461 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	17,264,941 株	24年3月期3Q	17,265,925 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続中です。
なお、この四半期決算短信は、同レビュー手続対象外であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。
実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	2
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	2
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	2
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興の本格化などから国内需要は、回復の兆しが出てまいりましたが、円高や海外経済の欧州債務問題に伴う金融不安により減退感も強く影響し、依然として先行き不透明な状況となっております。当第3四半期連結会計期間においては、我が国の政権交代及びこれに伴う金融緩和政策への期待により急速な円安進展及び株式市場の回復があったものの、実態経済への波及効果は未だ不透明なものとなっております。

このような環境の下で当社グループは前期に引き続きオーダーメイドを柱に経営資源の集約化をするとともにブランド力の強化に取り組んでまいりました。経営成績につきましては、売上高は卸売事業及び受託縫製事業の受注が比較的順調に推移したことから3,262百万円(前年同四半期比2.8%増)となりました。利益面については売上高の増加に伴う売上総利益の増加等により、営業損失34百万円(前年同四半期は150百万円の営業損失)と改善になりました。また、主に受取配当金33百万円があったこと等により経常利益は36百万円(前年同四半期は52百万円の経常損失)となりました。四半期純利益については法人税等15百万円の計上により四半期純利益15百万円(前年同四半期は85百万円の四半期純損失)となりました。

セグメント別では、小売事業が売上高1,493百万円(前年同四半期比0.3%減)、営業損失114百万円(前年同四半期は140百万円の営業損失)、卸売事業が売上高1,251百万円(前年同四半期比7.6%増)、営業損失7百万円(前年同四半期は46百万円の営業損失)、受託縫製事業が売上高496百万円(前年同四半期比1.8%増)、営業利益35百万円(前年同四半期は15百万円の営業損失)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ196百万円増加し、4,397百万円となりました。これは、保有している投資有価証券の一部を売却したこと及び季節要因により現預金が141百万円増加したことによるものであります。

負債につきましては前連結会計年度末に比べ102百万円増加し1,786百万円となりました。これは主に季節要因により買掛金が87百万円増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ94百万円増加し2,610百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金の増加79百万円及び四半期純利益15百万円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期までの業績につきましては、概ね計画どおり推移しております。平成25年3月期の業績予想につきましては、平成24年5月14日に公表いたしました連結業績予想に変更はございません。

なお、この予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報を前提としております。実際の業績は今後様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の売上総利益、営業損失、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前事業年度(第68期)において営業損失237百万円、当期純損失235百万円となり4期連続の営業損失の発生および営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しており、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

そのため、営業利益および営業キャッシュ・フローの黒字化が最優先の課題であると認識し、当該事象を改善又は解消すべく以下の対策を実施してまいります。

当社グループは「安定した利益とキャッシュ・フロー」を出せる経営基盤の確立の方針のもと、銀座山形屋の服づくりのこだわり「MADE IN JAPAN」・「着心地と品質」を第一としたオーダーメイドを柱に、「世界一のオーダーメイド企業をつくる」を合言葉に「品質の改善・向上」・「100%のリピートオーダーを目指す」を目標にグループ企業一体となり収益力向上を図ってまいります。

- ①「満足されたお客様は2度目もご愛用いただける」を目標に再客(リピーター)をものさしとし、品質・品揃え・価格・接客・知識すべての分野において、テラー銀座山形屋のプロとして「お客様への想い」を大切にしているグループをつくりあげてまいります。
- ②お客様に魅力的なブランドとして認知して頂くために、「銀座山形屋ブランド」は、銀座流の良質な大人の装いをテーマに、安心できる納得の品質でお客様に満足感を提案してまいります。この春夏には、クールビズ仕様での清涼感・軽量感が感じられる素材を中心にコーディネート提案をしております。「サルトリア プロメッサブランド」は、昨年秋冬シーズンから「モダンミラノ」モデルを投入し高評価を頂いており、イタリアの洋服文化を感じていただきながら、ファッションを楽しんでいただく満足感を提案してまいります。レディースオーダーの「ミスターナブランド」は、独自のパターンオーダーメイドシステムを更に強化し、他社とは一味違う着心地感とファッション性を追求してまいります。「プレフブランド」はオーダースーツの入門編として20才から30才をターゲット層とし、一歩踏み込んだ拘りでお客様に満足感を提供してまいります。
- ③製造事業会社のインターネットによるオーダースーツ販売ブランド「スーツファクトリーd p i」については、3年経過しマーケットに対するノウハウも積み上がり事業として黒字化を達成しました。今後は、この結果を踏まえながら小売部門と販売の融合をはかりながら強化継続してまいります。
- ④ 製造部門におきましては、T S S手法の活用で「ムダ・ムリ・ムラ」のない製造工程を作りあげ、安定した品質向上の出来る生産体制と販売体制との効率的な仕組みを作りあげてまいります。
- ⑤ 物流コストの見直しなどを中心に経費削減への取り組みを速やかに実施してまいります。

上記を中心とした施策を講じながら収益力の回復に努めてまいります。

資金に関しましては、当第3四半期累計会計期間末時点での現金及び預金と投資有価証券等の合計額は2,163百万円であり財務面に支障はないものと考えておりますが、さらに固定資産の流動化の強化に取り組むことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	620,848	762,682
受取手形及び売掛金	519,196	552,988
商品及び製品	155,357	165,882
仕掛品	18,937	21,424
原材料	127,728	116,510
その他	57,629	104,459
貸倒引当金	△1,451	△1,977
流動資産合計	1,498,246	1,721,971
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	114,845	104,915
その他(純額)	276,649	271,472
有形固定資産合計	391,495	376,387
無形固定資産		
その他	5,910	5,259
無形固定資産合計	5,910	5,259
投資その他の資産		
投資有価証券	1,282,523	1,300,464
敷金及び保証金	801,769	787,427
その他	297,725	263,864
貸倒引当金	△76,856	△58,106
投資その他の資産合計	2,305,162	2,293,648
固定資産合計	2,702,568	2,675,295
資産合計	4,200,814	4,397,267
負債の部		
流動負債		
買掛金	247,465	334,630
未払法人税等	16,689	13,759
ポイント引当金	30,073	29,501
その他	410,524	417,206
流動負債合計	704,752	795,098
固定負債		
退職給付引当金	614,747	601,636
役員退職慰労引当金	85,006	86,794
資産除去債務	198,368	195,285
その他	81,146	107,497
固定負債合計	979,269	991,214
負債合計	1,684,021	1,786,313

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,727,560	2,727,560
資本剰余金	242,303	242,303
利益剰余金	△479,815	△464,729
自己株式	△79,284	△79,328
株主資本合計	2,410,764	2,425,806
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	106,028	185,147
その他の包括利益累計額合計	106,028	185,147
純資産合計	2,516,792	2,610,953
負債純資産合計	4,200,814	4,397,267

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	3,173,354	3,262,556
売上原価	1,495,053	1,528,624
売上総利益	1,678,300	1,733,931
販売費及び一般管理費	1,828,674	1,769,165
営業損失(△)	△150,374	△35,233
営業外収益		
受取利息	1,816	1,553
受取配当金	33,366	33,886
受取手数料	9,425	9,743
雑収入	10,670	6,328
助成金収入	26,268	2,403
貸倒引当金戻入額	17,861	17,647
営業外収益合計	99,410	71,562
営業外費用		
支払利息	426	353
雑損失	1,487	413
営業外費用合計	1,913	767
経常利益又は経常損失(△)	△52,877	35,562
特別利益		
投資有価証券売却益	—	7,670
特別利益合計	—	7,670
特別損失		
投資有価証券売却損	—	9,585
投資有価証券評価損	2,057	—
減損損失	8,617	3,231
特別損失合計	10,675	12,817
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△63,553	30,415
法人税、住民税及び事業税	21,915	15,380
法人税等調整額	—	△52
法人税等合計	21,915	15,328
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△85,468	15,086
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△85,468	15,086

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△85,468	15,086
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	134,927	79,118
その他の包括利益合計	134,927	79,118
四半期包括利益	49,458	94,205
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	49,458	94,205

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	1,497,707	1,162,892	487,762	3,148,363
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	1,338,649	1,338,649
計	1,497,707	1,162,892	1,826,412	4,487,012
セグメント利益又は損失(△)	△140,612	△46,792	△15,076	△202,481

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	△202,481
セグメント間取引消去	3,024
棚卸資産の調整額	1,034
その他の調整額	2,008
全社収益(注1.)	280,704
全社費用(注2.)	△234,663
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△150,374

(注1.) 全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの経営指導料、不動産賃貸収入等であります。

(注2.) 全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	1,493,661	1,251,280	496,663	3,241,605
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	1,386,661	1,386,661
計	1,493,661	1,251,280	1,883,324	4,628,266
セグメント利益又は損失(△)	△114,835	△7,222	35,635	△86,422

(注)表示方法の変更

従来、「その他」の区分に持株会社としての管理業務、不動産賃貸業等を記載していましたが、不動産賃貸収入の減少をうけて見直したことにより、「その他」から差異調整に関する事項の全社項目として開示することがより適切であると判断したため、当第3四半期連結累計期間より表示方法を変更するものであります。

この結果、前第3四半期連結累計期間の「その他」のセグメント利益46,041千円を差異調整に関する事項の全社収益280,704千円及び全社費用234,663千円に組替えております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	△86,422
セグメント間取引消去	3,024
棚卸資産の調整額	△521
その他の調整額	△9,142
全社収益(注1.)	279,539
全社費用(注2.)	△221,710
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△35,233

(注1.)全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの経営指導料、不動産賃貸収入等であります。

(注2.)全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。